

育脳寺子屋NEWS

2022. 3. 1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

中国、春秋時代の兵法に学ぶ

～今も語り継がれている『孫子の兵法』～



孫子（そんし）とは中国の春秋時代（紀元前 722 年～473 年）に孫武（そんぶ）という兵法家が記した、全 13 篇からなる兵法書「孫子」のことを指します。

今から 2,000 年以上前に書かれた、いわゆる「戦いにおけるセオリー」をまとめた孫子の兵法は、なぜ未だに語り継がれているのでしょうか？

それは戦いだけではなく、現代社会においても当てはまる内容が非常に多いからなのです。

マイクロソフトの創設者ビルゲイツ氏、ソフトバンクの孫正義氏、経営コンサルタントとして書籍を多く出版している大前研一氏などなど、みなさん孫子の兵法を愛読されていたそうです。はたして、孫子の兵法とはどういったものなのでしょう？

今回は、育脳寺子屋の取り組みや考え方に通ずる部分や、大人・子供に関わらずこれからの人生で役立てることができそうな部分を抜粋し、紹介しようと思います。

かれを知り己を知れば、百戦して殆うからず

大意：相手のことも自分のことも知っていれば、100 回戦っても負けることはない。

孫子の兵法の中でも最も有名で、スポーツの場面などでもよく使われる一説です。戦いに挑む際の心構えを説いた言葉なのですが、「敵の実情を知らず、味方のことだけを知っている状態では、勝つこともあるが負けることもある。そして敵のことも味方のことも知らなければ、必ず負けてしまうだろう。」と付け加えられています。

まず勝つべからざるを為して、以て敵の勝つべきを待つ

大意：まず守りをしっかり固め、敵が弱点をあらわして勝てる態勢になるのを待つ

自分達の良い状態や勝つための条件を整えることはできても、必勝の体勢にできるかどうかは相手次第ということです。隙のない相手であれば、いかに自分達が勝つための条件を整えたとしても、必勝の体勢にはなりません。敵に弱点が生まれるのを待ち、あるいはそうなるよう仕掛け

る必要があります。言い換えれば「**時期を待つ**」ということです。

迂^うを以^{もつ}て直^{ちよく}となし、患^{かん}を以^{もつ}て利^りと為^なす

大意：回り道をすることが直進することとなり、損をすることが利益になるのである

ビジネスでも一見、損をしてしまうような選択こそ、勝利への道であることが多々あります。勝利を急ぎ、目先の利益を急ぐ人ほど多くの利益は得られません。例えば、最初は儲からなくとも、仕組みづくりをしっかりとした人は最終的には仕組みによって稼ぐことができますが、すぐに収入を得ようとすれば、時給で働く考え方になり多くは稼げません。「**損して得取れ**」という言葉とよく似た意味です。

先^{さき}に戦^{せん}地に処^ちりて敵^{てき}を待^まつ者は佚^{もの}し、後^おれて戦^{せん}地に処^ちりて戦^{たたか}いに趨^{おもむ}く者は勞^{もの}す

大意：先に戦場に着いていて敵を待ち受ける軍はゆったりとしているが、後から戦場に入ってきて戦おうとする軍は疲れているものである。

何事も後手に回ると苦労が多くなってしまうので、早めから行動しようという意味です。時間がないとできることは限られますが、早めから行動していれば直前まで相手の弱点を研究したり、作戦をたてる時間が持てるので、勝つ可能性が上がるのです。

善^よく戦^{たたか}う者は、其^{もの}の勢^{せい}は陰^{けん}にして、其^{その}の節^{せつ}は短^{たん}なり

大意：地道な努力で、いざという時のために力をためておく

力を最も効果的に引き出す方法については、弓をぎりぎりまで引いて、タイミングが来たら一気に放つイメージです。そのタイミングがくるまでは、地道に力を蓄える必要があります。

智^ち者の慮^{りよ}は、必^{かなら}ず利^り害^{がい}に雑^{まじ}う

大意：優れた人は、一つのことをプラスとマイナスの両方から考えている

成功すれば「自分はすごい」と思い、逆に失敗すると「自分なんかダメだ」と思ってしまいますが、それでは物事がうまくすすんでいきません。何事にもプラス・マイナスの両面を併せ持っているのです、その両方に目を向ける心構えが必要です。

能^{のう}なるもこれに不能^{ふのう}を示^{しめ}し、用^{よう}なるもこれに不用^{ふよう}を示^{しめ}し

大意：能力はむやみに自慢せず、ここぞという時に静かに発揮しよう

「自分はこんなに能力がある！」と自慢していると、周りに嫌な印象を持たれますし、それを見たライバルが今まで以上に努力をし、追い抜かれる可能性もあります。「**能ある鷹は爪を隠す**」

ということわざもありますが、自慢したい気持ちはぐっと我慢をして、ここぞという時に能力を発揮するようにしましょう。

よ たたか もの ひと いた にん いた
善く戦う者は、人を致すも人に致されず

大意：戦いの上手い者は他の人の意見に振り回されず、自分で決断することができる。

私達は色々な人の影響を受けて成長していきます。たとえ自分が信頼できる人の意見だったとしても、何も考えずにそれを受け入れるのは良くありません。なぜなら、周りの人は自分とは生まれも育った環境も違う人なので、その人の一番良いと思う方法が自分にとっても一番良い方法だとは限らないからです。

自分とは違う価値観や考え方に触れることはとても大切です。あとはそれを踏まえ、どのような判断を下すのかは自分次第なのです。自分のすべきこと、自分の進むべき道を決めるのは自分自身、自分の未来を切り開くのも自分自身なのです。

・ ・ こうして全体の内容を見てみると、孫子の兵法には「**勝つ方法**」というよりは「**負けない方法**」が書かれています。そして、全体的に一貫して感じたのは「**目先の利益ではなく長期的な繁栄を目指して、やるべきことを粛々とやる**」ということです。

こういった点が現代社会にも活かせるところが、ビルゲイツ氏や孫正義氏などの偉人を虜にしている所以なのだと感じました。

そしてその考え方は、現代の子供たちに必要な教育にも大きく重なります。

「孫子の兵法」で考える、教育のあり方

勉強とは本来 社会に出てから困らないよう に、取り組むものです。

ただ、社会で必要とされるのは「勉強して得た知識」ではなく、絶え間なく変化を続ける時代に対応するための『自ら学び成長する力』です。

なので学生の間は、目先の点数・結果を追い求めることよりも、教科の勉強を通して「自ら学び成長する力」を養うことが一番重要なのです。（その結果、成績も良ければ言うことはありませんが）

しかし最近では「良い成績を取るため」「良い進路を実現させるため」が勉強の目的になっているように感じます。決してそれがいけないと言いたいわけではなく、それを目的にしてしまうと、先述の『自ら学び成長する力』の部分を伸ばしにくいのです。

「良い成績」「良い進路」を目的とした場合、より短い時間でより高得点を取れるように効率を

重視して、多くの塾や予備校は 徹底的に無駄をそぎ落とした授業や教材 を準備し、提供します。

しかし、無駄をそぎ落として用意されたサービスを享受して結果を出すことに慣れれば、『自ら学び成長する力』はあまり伸ばせません。なぜなら、その力を伸ばすには多くの無駄や失敗が必須 だからです。無駄や失敗を経験する、次はそうならないために工夫する、その繰り返しを人が成長させてくれるのです。

そして何よりも、「自ら学び成長する力」は知識のインプットだけではなく、自分自身をよく知ることが重要になってきます。

自分はどんな所が弱点なのか、どのような勉強法・勉強量が一番自分に合っているのか、どのくらいのペースで復習するのが一番効果的か・・・といったことを、失敗を繰り返しながら、自分自身で見つけ出すことが一番重要です。

社会では、学生の時のように手取り足取り、できるまで教えてくれる環境はありません。昔は社員教育に時間を割く余裕がありましたが、最近ではその余裕もなく即戦力として期待されます。

そんな状況の中で、上記のように「自分をよく知っていて、自ら学び成長する力」を持っていれば、誰かに仕事を手取り足取り教えてもらわなくとも「先輩の姿を見て」「様々な失敗から学んで」「自分で調べて」成長できるので、社会で困ることはないのです。

このようにして比べてみると、私たちの考えは孫子の兵法と似通った部分が多々ありました。

ぜひお子さんには、目先の点数・成績をすぐに求めるのではなく、もっと先を見据えて取り組ませてあげてください。親が点数や成績をガミガミ言うと、子供は先を見た取り組みができなくなります。

育脳寺子屋ではたくさんの失敗をさせています。その一見無駄に思えることから多くのことを感じ、学び、自身と向き合い、自分を知った上で、これからどうしていくかを考えてもらっています。

どうか「成績が良くない＝努力していない」ではないことをご理解頂き、長い目で我が子の成長を見守って頂きたいと思えます。